

Bee通信

平成22年10月12日号

Beeパートナーズ 社労士事務所

大切な人達に「感動を贈る」ために日々生きよう！ 吉岡 規子

10月9日～11日の3日間を使って、Bee通信でも何度が登場していただいています 経営コンサルタント 西村 聡氏(株)メディン代表、元 関西生産性本部)、勉強仲間と共に高知に行ってきました。今回の目的は、全国から注目されている“村”と“企業”の実際の姿を見せていただき、そこに至るまでのご苦労等と日頃何を大切にしているか、ホンモノなのかどうか…を感じたい!(生意気ですみません)と思い足を運びました。

数度の合併話を断り、村おこしの成功例と語られている高知県で2番目に小さな村 馬路村(うまじむら)、企業は、「日本で一番大切にしたい会社」(坂本光司氏著書)等でもお馴染みのネットヨタ南国(株)です。今号と次回(12月10日号)と2回に分けて、そこで見聞き&感じたことをご報告させていただきます。



* 高知県馬路村 *

<http://www.inforiyoma.or.jp/umaji/>

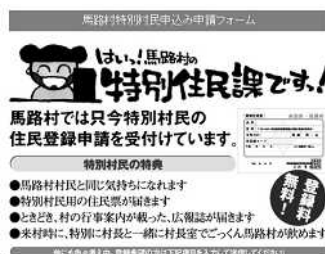
研修旅行の計画の段階の時に、村おこしの事例を見に行くとは聞いていましたが、馬路村ってどこ? というテンション低い反応だった私でした。

人口1,045人の村。ホームページを見れば、まだ村に行っていないのに村民の方々に会ったと勘違いしてしまうくらい村民の方がCMに登場していたり、なんとも素敵な勢いある絵。その中に、『只今、特別村民登録受付中!』という文字を見つけ、せっかく行くのだから特別村民になって特典(村長に会って、馬路村の名物「ごっくん馬路村」を飲む)を体験しないなんてもったいな～い!…と思い、さっそく登録。(村の人口の約3倍の3,000人以上が特別村民です。)

そこからがまたスゴイのです。特別村民の住民票やら村MAP、村が力を入れている商品等々のお知らせがすぐ届きました。あれよ、あれよというスピードで、馬路村ファンになっていっている自分にビックリ。

さて、訪問した日は祝日。「村役場はお休みだから、特典の村長に会って、ごっくんは飲めないんだよ」と半ば諦めていましたが数%の期待で村役場へ。「どうぞ!お待ちしております。」と本当の村長室に通され、等身大?の村長さんの写真と共に記念撮影(右写真)です。訪問された方々が写っている写真アルバムを見ながら、「ごっくん」を一気に飲みました。美味しかった～。

期待を裏切らない村だな～。



写真の村長さんと共に



馬路村にはデザイナーの田上泰昭さんの絵がたくさん使われています

ファンになった私が手にした『ごっくん馬路村の村おこし』という本に、「感動を贈る。それが私の目指す産直だ」という章があります。そこで気になるワンフレーズ。『届くのが待ち遠しい請求書』こんな請求書作れたら…と本気で思っています。「またBeeから請求書が届いたよ」と業務と報酬が見合わなければ正直、「不満」を感じさせてしまうでしょう。(もしかして今読んでいただいている顧問先さんで、「そうそう」とうなずいていらっしゃる企業さんがあれば、この後、そうならないよう努力致しますので、ご助言下さい)

馬路村の請求書は、四季折々のメッセージと田上泰昭さんの描くユーモラスな絵がふんだんに使われているようです。請求明細書、お届けリスト、振込用紙がセットされたB4サイズの請求書の裏にも、馬路村の元気な子供達の絵が踊っているらしいのです。

馬路村で直接、商品を買ってしまったあ～、失敗失敗。請求書がほしいから、通販でもう一度頼んでみよう…と思っている私がいいます。きっと今日明日にも注文しているでしょう(笑)

“村おこし”の仕掛けは確かに大切です。B級グルメの大会もその一つだと思います。しかし、仕掛けがあれば、そこに住んでいる人達は潤うのか? と言えば、そんな単純なことではないでしょう。何故なら、この仕掛けを動かすのは“人”だからです。人と人の信頼関係があってこそ、この仕掛けが動くというもの。村のことを本気で思い村に賭ける思いを持つリーダーが必要なのです。馬路村にも農協の東谷さんという方がいます。

失敗に負けず、努力している姿は美しいものです。そんな姿を見ている時間が長ければ長いほど、段々応援していきたい…と思う人は増えるはず。そうアタマで分かっているでも“動ける(実行できる)人”は、またまたその一部です。

今のままの日本、今のままの会社、今のままの家族…そして今のままの自分で良いですか?

周りの人達に感謝し、大切な人達に「感動を贈る」ために日々、生きよう! 私が、今の私に贈る言葉です。